


The image consists of a horizontal sequence of 12 square grayscale frames arranged in a single row. Each frame depicts a different stage of a hand's motion. From left to right, the sequence shows: 1. An open hand with fingers spread. 2. The thumb and index finger beginning to close around a small, dark, circular object. 3. The hand closing further, with the fingers becoming more compact. 4. The hand almost fully closed, with the fingers tightly curled. 5. The hand opening again, with the fingers partially spread. 6. The hand closing again, with the fingers becoming more compact. 7. The hand almost fully closed, with the fingers tightly curled. 8. The hand opening again, with the fingers partially spread. 9. The hand closing again, with the fingers becoming more compact. 10. The hand almost fully closed, with the fingers tightly curled. 11. The hand opening again, with the fingers partially spread. 12. The hand closing again, with the fingers becoming more compact. In the final frames (8-12), a small, dark, circular object, resembling a ring or coin, is visible between the fingers, indicating the hand has grasped it.



増築中の天間館

「なんとか、ぼんやりしていることが多い」「新しいことや知らないことに、ほとんど関心がなくなつた」。これらは“痴呆老人の最初の兆候”としてあらわれる精神状態や症状の一郭だと言われています。寿命が延び第一、第二の人生となる老後、だれも自分がら、痴呆老人になりたいと思つている人はいないと思います。

現在、痴呆老人専門の特別養護老人ホーム「天間荘」が増床されるなど、痴呆対策の充実が図られていましたが、もう第一に痴呆について関心を持ち、痴呆にならぬいよう心掛けることも必要ではなじでしようか。人は皆、年をとるのですから。

が
し、
空室がなくすぐ入所できただ
いため、増床の必要性に迫られて
いました。

—
トス
テイ
なと

天間荘が
四月一日から八十床に
痴呆老人専門の入所施設として
昭和五十九年にオープンした天間
荘。現在五十人が入所しています
が、三十床増床のため二階建を三
階建に増築工事中で、四月からは
八十人収容の施設になります。県
内にある同様の施設は、焼津の「あ
おい荘・九十人収容」だけ。二つ
の施設で県内全域の入所希望に対
応しています。

市は毎月、駿河荘、富士楽寿園、
天間荘など老人ホームの入所審査
をしていますが、対象者は毎回十
人前後。内二割くらいが痴呆老人
で、天間荘の入所対象者です。し

る家族のたぬに、老人を一週間くらいい施設でお預かりするシートステイ制度があります。この制度は、介護者が病気、出産、結婚離婚などで介護できなくなったり、介護疲れをいやすとされたら利用できます。費用は一日一千八百九十四円です。現在、天間荘、富士樂寿園、岩本園、鑑石園に合計十六ハ床あります。まちが、天間荘では今回の増築で

自分から
見えて
いる
自分から
見えて
いる

問い合わせ 福朴課 内線2318



△天間莊の廊下は楕円型

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、

「新らしいこと」や「知らないこと」にほとんど関心がなくなつた
自分から率先して仕事をすることは、ほとんどない。

「その話は三度目だ」と言われたことが、一週間に何度かある。

昨日の夕食の内容が、どうも思い出せない。

以前は自分でやつていたが、つい人にやつてもらうことがある。
以前より随分、話し方や動作がのろくなつた。

人の話に同意できないことが多くなつた。

何をやるにも、なんとなく意欲がわかなくなつた。

途中で嫌になつて、やりつ放しになつていて仕事がある。

最近、冗談やしゃれを言つて人を笑わせたことがない。

テレビのリモコンなど、新しい道具はどうも苦手だ。

一つの用事をしている間に、他の用事を忘れてしまい、失敗したこと
がこの一ヶ月の間に二・三度ある。

最近、化粧や身だしなみに気を使わなくなつた。

人が感動して涙を流していても、自分は何も感じないことがある
「考えること」や「すること」が、毎日ほとんど変わらない。

一日に何度も同じことを、人に尋ねることがある。

このところ、異性にはまつたく关心がない。

さらに頑固で自己中心的になつた気がする。

いかがでしたか。もちろん○の数は少ない方がよいのです。結果については、それほど神経質に受け止める必要はありませんが、○の数が半分以上あるような場合は、ちょっと注意が必要かもしれません。ぜひ自分の生活様式の改善に取り組んでください。

次の二か月は、「ホケの最初の北伐」としてあらわされていくだめです。それる精神が最も注目すべきです。止てはまると思つた種町ひらをひけていきました。

家族も元手土産をうつす

(駢此生篇・おじさくらのうぢゆう)

シメントステイのベッドを十九床
あります。需要に応えます。
とですが、理学療養士によるリハビリも行われます。走りは
五時まで施設を利用するティ・ナ
ービスが、天門社でも始まります。

梶原先生は、天間莊に隣接する鷹岡病院の院長さん。天間莊の嘱託医もしていきます。知りません。詳しい先生のお話です。

痴呆にならざりすいのは

萬
示
記
な
と
た
し
左
ゆ
記



鹿岡病院院長 桂原 昇先生

「知呆には、高齢者の脳が萎縮する原因不明の『アルツハイマー型痴呆』と、脳梗塞などでも脳が壊れる『脳血管性痴呆』があります。いずれも症状が進行しますが、根本的な治療は難しいです。しかし、適切な介護や医療で進行を遅らせることがでれます」

「最近、痴呆の患者さんが
えてこますね。でもこれは、
庭内でなんとか看病してきただけ
ど、でやがて病院へ来る
人がふえたんだと思います。
痴呆の症状は、家族の名前
顔を忘れたり、家を出て歩き回
る徘徊などがありますが、脳力
壊れるのが原因です」

受診中間報告

「おかしいなと思つたら、専門医などに相談してほしです。ね。それと、痴呆老人を抱えくる人たちなどが『すがりなの会』をつくっています。仲間になると心強いと思いますね。だれでみんな年とり、ばかり寝起きになります。在宅介護を基本として、家庭を壊さないために、ショートステイやデイ・サービスを上手に利用しておひざじたこと思いました」「

ほけなったゆの七九條
ほんりしないで動きもせず
ほんりう診断を怠れずに
んでもせ教えてあげましょう
んのしりグルーフ活動こたしました
しもう
たのしい
しりも
しりも
めんどうがなすに挑戦しおり
めんどうがなす腹立つも